

SSKW

川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 関山 進
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 伊藤 實
〒210-0834 川崎区大島 1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E-mail zksk@nifty.com
<http://kawashinkyo.org>

令和 7 年度 障害者作品展 開催



令和 7 年 12 月 10 日(水)から 14 日(日)までの 5 日間、アートガーデンかわさき第 1・第 2 展示室にて川崎市障害者作品展を開催しました。今回は、アートガーデンかわさきに移して回を重ね、ちょうど 10 回目の開催となります。会場には、市内在住の障害のある方が制作された絵画 116 点、写真 7 点、文芸 3 点、書 10 点、手工芸 23 点、計 159 点と、昨年度を上回る作品数を展示でき、作者ご本人やその関係者、川崎市立図書館の帰りにフラッと寄って下さった方など、多くの方にお越しいただきました。会場内では、作品や作品に添えられている説明文を見ながら、「この作品素敵だね、どうやって作ったのかな」という会

話を耳にしたり、会場内に用意した作品制作風景動画を見た後に、再度その作品を鑑賞される方もいらっしゃいました。

また、作者の方からは「作品を発表できる場があると制作活動の励みになる。」「他の作者の作品から新しい作品のイメージが湧いたり、自身の知らない技法を知ることができた。」などの感想をいただきました。

作品展期間中の 13 日(土)と 14 日(日)には、作品展に来場された方を対象とした「祝い箸作り体験」(地域活動支援センター糸ぐるま様)、「くまカスタネット作り体験」(なごみ福祉会夢花工房様)のワークショップを実施しました。体験は短い時間でしたが、参加され



（絵画エリアの展示）

た方は講師のレクチャーを受けながら、創作体験を楽しんでいただくことができました。

この作品展が作者、観覧者のみなさまにとって、実りあるものとなったのであれば、作品展開催の目的である「障害（者）についての理解を深めること、作者の方々の制作技術の向上を図ること」が達成できたのではないかと考えております。

作品展の開催にあたり、作者の皆様、市立川崎高等学校福祉科の有志の方、作品展実行委員の皆様、ご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。（事務局）



（写真・書エリアの展示）

作品展に参加して

令和7年12月10日から14日まで開催された作品展には、一般社団法人川崎市自閉症協会から24作品を出品させていただきました。当協会は、『自閉スペクトラム症』の子どもをもつ保護者が主として会員となり、当事者及び家族・関係者に対する支援を行っています。同時に、一般市民の皆さまに『自閉症』『発達障害』の特性を知っていただき、住み慣れた地域で穏やかに暮らせるよう啓発活動

にも力を注いでいます。その活動の一つとして、毎年秋に自閉スペクトラム症の人の作品を持ち寄り「かわさきし自閉症児・者作品展」を多摩区役所1階アトリウムにて開催してまいりました。（昨年で34回目の開催となりました）

川崎市障害者作品展には、主に市内南部地域の市民の方々に、『自閉スペクトラム症』の人たちの存在を知っていただくきっかけになればと、継続して作品を出品しています。

現在、障害福祉は、大きく「身体」「知的」「精神」と分かれていて、それぞれの親の会や当事者の会また関係団体が、「作品展」を開催しています。川崎市障害者作品展は、『応募資格：原則として市内在住・在勤・在学の障害者』なので、団体に属していない人でも、気軽に作品を発表できる貴重な場だと思います。

障害のある人の作品は、その障害特性から表現方法に独特なものがあると思われがちですが、必ずしもそうではありません。自分が今できること、好きなことを形にして出品しています。同じ地域に障害のある人が暮らしているということを、観に来られた方々に知ってもらい、何かを感じていただけたら嬉しく思います。

さて、今回の作品展についてですが、非常にカラフルな絵画が多く華やかな作品展となりました。会場レイアウトの工夫により人の流れもスムーズで、観覧しやすい印象でした。週末開催のワークショップも好評で、今後さらに市民参加型の楽しめる作品展になってい



くと観覧者増につながるかもしれません。

私個人としては、息子の作品を出品させていただきました。なにぶん会話が成立しないので本人の感想を聞くことはできませんが、作品展に向けて『毎年何かを作る』きっかけになっています。そして毎年息子には、作品搬出のお手伝いをしてもらって（させている？）います。

最後に、推進センター他スタッフの皆さま、ワークショップでお世話になった方々、ボランティアの学生さんに心より感謝申し上げます。

（一般社団法人川崎市自閉症協会 飯塚千佳子^{いづかちかこ}）



（ワークショップの様子）

出展者の感想

令和6年度、令和7年度と2年連続で作品展に出展してみて、私は普段はキャラクターのイラストを描いていますが、こういった機会がない限り、他のジャンルの絵を描けなかつたと思います。そういった意味でも、出展することには自分の描ける可能性の広がりを感じます。

趣味で描いているイラストに色をつけることはほぼ無いのですが、作品展へ出展する作品には絵の具や色鉛筆を使っています。構成やどの色を使えば目立つか、色彩が良くな

るかを考えて描くのは大変でした。しかし、色を付けることによって自分の絵に味や個性が出て良いなと思いました。そこから、今までは趣味で描く絵として完結していたものを、改めて色彩感覚というものまで意識するようになりました。

前回の令和6年度では初めて作品展に出展しました。出展するにあたり、川崎らしい絵を描きたいと思い幾つかの写真を参考にいく中で、「川崎と言えばこれだ！」と選んだのが外観がイルミネーションや冬の装飾で彩られたチネチッタでした。この絵を描く時には線の入れ方や角度を考えて立体感が出るようにしました。また、イルミネーションを再現するために施設の職員と相談しながら金銀に透明のラメフィルムなども使いました。

令和7年度の富士山の風景画は、色を重ねて塗り変則的にすることで厚みを出せるよう工夫しています。2作品目ということ、川崎チネチッタという建造物ではなく自然の風景画ということで、特に色塗りの工程に力を入れましたが、手が疲れてしまったり集中力が途切れてしまうことが多々ありました。けれども、絵を描くことが好きなので最後までやり遂げることが出来ました。富士山は時間をかけたことによって、より良い作品にすることが出来ました。

支援学校を卒業し社会人になったら作品展のようなものはそう無いのだろうと思っていました。しかし、趣味として絵を描いていたことから作品展への出展を勧められ参加し



（山田さんの作品「☆Japanese フジヤマ☆」）

た1回目の作品が令和7年度のポスターに起用されました。2回目の出展はぼんやりとしか考えていませんでしたが、ポスターに選ばれたことが励みとなり自分自身のステップアップとして挑戦出来たことも嬉しい限りです。

この私の作品は、私の力だけではなく、道具を用意してくれた方、作品のアイデアと一緒に練ってくれた方、作品の撮影や搬入に携わってくれた方達が居てくれたからこそ、ひとつの作品として成り立っています。

協力すること、作品を作り上げることの大切さを、制作の過程で改めて感じ、また自分自身が作品展の観覧に行った際には、他の方の作品を見ることでその作品が表現する何かを吸収することもできました。これからも色々な方に感謝をしながら作品づくり、絵を描くことに携わっていければ幸いです。

また機会がありましたら、是非参加したいと思っています。

（南部身体障害者福祉会館

作業室飛行船 やまだつばさ 山田翼）



（皆さん熱心に観覧されていました）

ボランティアのみなさんの感想 （川崎市立川崎高等学校）

私は最終日の最後の3時間ほど、参加させていただきました。来場者の方々が鑑賞されている様子を見る時間は限られていましたが、会場の片付けをお手伝いしながら、作品を間近で見ることができました。

思わず目を奪われるほど印象的な作品や、作者の意図を知ることにより深く魅力を感じ



（ボランティアの様子）

られる作品など、それぞれに豊かな表現と個性があり、強く心に残りました。

また、作品を引き取りに来られた作者の方々やそのご家族の姿を見て、この作品展が多くの方にとって大切な場であることを実感しました。今回のボランティア参加を通じて芸術の人と人をつなぐ力を改めて感じる事ができました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

（福祉科1年 さいとうゆい 齊藤結衣菜さん）

障害者作品展のボランティアに応募した理由は、福祉科で介護福祉士を目指すために障害者福祉について学習していたことと、障害者の方々の作品に関心があったからです。

実際にボランティアに参加させていただき、作品にはそれぞれ「個性」やその人の「思い」があり、主体性と創造性に溢れていました。その人が描きたい絵や作品を自由に制作していました。障害は一人ひとりの個性であり、作品にもそれが活かされていると感じました。私は受付なども行いましたが、障害者の方々ご自身やそのご家族が笑顔で作品を鑑賞されている姿がとても印象に残りました。

障害者の方々が作品を制作することで自信や生きがいにつながり、それを多くの人たちに観ていただくことにより、「障害者の方々の才能や感性」を知っていただく機会にもなるのだと実感しました。この貴重な経験をこれからの学びに活かしていきたいと思えます。

（福祉科2年 わきひなた 和氣日向さん）

東京2025デフリンピック特集②：28万人が熱狂！共生社会への大きな一歩



11月15日から26日までの12日間、東京を中心に開催された「東京2025デフリンピック」は、大きな感動と共に幕を閉じました。

■ 記録で見る大会の成功

各会場を訪れた「総来場者数」は約28万人に達したと大会運営委員会から発表されました。当初の予想10万人を遥かに上回る多くの方が会場に足を運び、デフアスリートの躍動に声援を送りました。

また、「国立オリンピック記念青少年総合センター」に設置された情報発信拠点「デフリンピックスクエア」には、延べ5万人以上が来場しました。国際手話体験やろう文化の紹介を通じて、きこえるときこえない人が交流する貴重な場となりました。

参加国・地域：79か国・地域

参加選手数：約2,800名

日本選手団メダル数：51個

（金16、銀12、銅23）※史上最多

YouTube 配信視聴数：約320万回



（情報発信拠点「デフリンピックスクエア」）

■ 出場選手からのメッセージ

川崎市にゆかりのある4選手も全力で戦い抜きました。熱戦を終えた各選手のメッセージを掲載します。

ひらおか さゆり
平岡 早百合 選手（バレーボール女子）

成績 金メダル（優勝）

日本女子バレーチームの副主将として、攻守にわたりチームを牽引しました。決勝では強豪トルコをストレートで破り、見事2大会ぶりの金メダルを獲得。

今大会、たくさんのご声援、ありがとうございました。

前回大会の悔しさを胸に挑んだ東京デフリンピックは、初日から入場規制になる程の観客数に、楽しみと嬉しい気持ちで胸がいっぱいになりました。多くの方々に応援していただき、最高のパフォーマンスができたと思います。

女子バレーは、順調に予選リーグを突破し、宿敵ウクライナに3-2、前回大会優勝のトルコに3-0で勝利し、全勝で金メダルを獲得することができました。金メダルが獲得できた瞬間は本当に嬉しかったです。

皆さんの熱い声援のおかげで、とても素晴らしい大会になりました。改めて、本当にありがとうございました。



加賀屋 圭一 選手（ハンドボール男子）

成績 第7位

日本デフハンドボール界にとって歴史的な大会となりました。最終戦のケニア戦において、デフリンピック史上「日本代表初勝利」を挙げ、世界7位という結果を刻みました。

たくさんの応援をいただき、ありがとうございました。選手たちや監督・コーチのおかげで、目標の1勝をすることができました。初めての国際試合を通して、貴重な経験を積ませていただきました。デフハンドボールを見て楽しめてもらった人が少しでもいてくれると嬉しいです。またここから、デフハンドボールと一緒に盛り上げてもらえるように頑張ります！！

濱谷 秀平 選手（射撃）

成績 10mエアライフル/ピストル混合団体12位

初出場にもかかわらず、混合団体（ペア）では世界12位という成績を収め、世界の強豪と互角に渡り合いました。今後の活躍に期待です！

応援してくださった皆さん、ありがとうございました。目指していた目標には到達することが出来ず悔しい気持ちですが、東京2025デフリンピックという舞台で日本代表として戦っている姿を支えてくれた多くの方に見てもらえたのは私の財産です。個人としては次のアテネデフリンピックに向けてもっとレベルアップできるように頑張っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願いたします。

木村 修 選手（オリエンテーリング）

成績 ミドルディスタンス（男子）18位

伊豆大島の険しい「裏砂漠」を舞台に行われた過酷なレースに挑みました。1時間34分41秒という記録で、難コースを最後まで走り抜き、見事18位で完走。

難しいトレイン（コース）ではナビゲーション技術で上位に食い込めると考えていたのですが、ミスを重ねて18位という不本意な成績に終わりました。伊豆大島は海外にも他に存在しないような特殊なトレインでそれだけ難しかったということでもあります。海外の選手は初めての場所にもかかわらずコース設定者の想定する優勝タイムより速く走った者も多いことに素直に驚きます。

特にウクライナの強さは圧倒的で、聴者を含む大会では常勝の北欧勢を抑え、全メダル27個のうち15個と過半数を獲得しています。

日本でオリエンテーリング競技がこれだけメディアに露出することはかつてなかったことであり、これを機会に多くの若者がオリエンテーリングに興味を持ち、参加してくれることを期待しています。私自身もこのような貴重な場に選手として参加させていただけたことに感謝します。これからはコーチとして育成の方に比重を移しつつ、2027年のワールドマスターズゲームズをターゲットにトレーニングを重ねていきます。

応援ありがとうございました。



（メッセージを寄せていただいた4選手）

■ 次なる舞台はスポーツの聖地・アテネへ

次なる舞台は4年後の2029年、スポーツの聖地ギリシャ・アテネへと引き継がれます。

東京大会で燃え上がったこの感動と情熱を絶やすことなく、これからも共に応援し続けましょう！

（川崎市ろう者協会 広報部）

川崎市内の福祉施設紹介「地域活動支援センター糸ぐるま」

地域活動支援センター糸ぐるまは、前身の「もくれん工房大島」が平成14年に障がい者地域作業所として開所してから、今年で25年目になりました。設立当初は大島5丁目で運営していましたが、平成19年12月に現在の大島1丁目に移転し、NPO法人^{つむぎ}糸^{かい}の会として、また名称も「糸ぐるま」に変更し、心機一転新たにスタートし、現在まで運営を続けてきています。



(施設外観)

30名の定員に対して、現在22名の利用者が在籍しており、10代から80代までの方々に、平均年齢は60代と高齢化が顕著です。当初は身体障がいの方が中心でしたが、現在は精神障がいの方が増加しつつある、といった状況です。

日中活動として、以前は自主製品（主にビーズを使ったストラップやネックレス、ブレスレット、またしじみの貝で作ったカエルの根付やお正月用の祝箸など）を製作して、「市民祭り」や「みなと祭り」、「いいじゃんかわさき」などの地域のイベントに出店して販売していましたが、コロナ禍などを経て現在は縮小しつつも継続しています。また、製品販売と同時に模擬店も行っており、玉こんにゃくやかき氷などを地域のお客様によくお買い上げいただきました。改めて御礼申し上げます。

さて、現在の授産活動のメインは軽作業となっており、5つの企業から仕事を受注させ



(自主製品：ビーズを使ったストラップ)

ていただいて日々取り組んでいます。具体的には、シャープペンシルの組立・キットパス（固形マーカー・クレヨン）の紙巻き・黒板消し型のストラップの作成・釣り具の組立・キムチを入れる袋折りやボトルシール貼りなどです。そのほかにも、施設外就労として、週1回産業廃棄物処理の会社に行って廃棄食品の分別作業を行っています。これは立ち仕事になるので、希望者のみが参加しています。

糸ぐるまの特色として自負しているものに、利用者自身が「主体的な関わりを持とう」というものがあります。毎月、全員参加のミーティングを行い、日々の活動の中で気になった点などを皆で討議しています。ミーティングに提案する議題を検討する事務局にも利用者に参加してもらい、職員とともに糸ぐるまの運営に関わってもらっています。自分の障がいの事だけでも手一杯だとは思いますが、他の利用者の様子にも気を配ることは、思いやりの心が育まれることにもつながると思



(室内：作業スペース)

ます。障がい特性として全体ミーティングの場などが苦手な利用者があることも実態としてありますが、その場に参加することが自分も糸ぐるまの一員なんだという意識づけにもつながっているはずだと信じて、皆には参加をお願いしています。

通われる目的は利用者それぞれあると思いますが、自らが選択して糸ぐるままでの日々が楽しいものとなるよう、今後も利用者・職員・ボランティアと協力しながら頑張っていくと思います。

〈見学・製品等お問い合わせ先〉
地域活動支援センター糸ぐるま
〒210-0834 川崎市川崎区大島 1-3-6
TEL：044-222-0669

(地域活動支援センター糸ぐるま あんどうきとし 安藤敏)

多摩地区：新年交流会

令和8年1月25日(日)、多摩区身体障害者協会の新年交流会を開催しました。

当日は日本海側では大寒波が押し寄せ、川崎も最高気温9度という極寒の中での開催となってしまいました。様々な障害を持つ24名（ヘルパーさん含む）の方々にご参加いただきました。

1部では昼食をとりながら久しぶりに会う方たちとおしゃべりを楽しんだり、和やかな雰囲気でした。

2部は聴覚障害のある落語家、高井家のろまさんによる手話落語寄席でした。演目は「ろくろ首」やオリジナルの作品でした。始まる前は、通訳者を介しての落語は初めてなので、皆さんにうまく伝わるか心配しました。しかし慣れてくると、通訳者がうまく表現されていたこともあり、間が合ってしまうのも気にならなくなり、途中からは楽しむことができました。聴覚障害の方は声を上げて笑ってい

ました。

今までは音楽（歌あり）や太鼓、津軽三味線と尺八、などを実施してきました。演目には「さまざまな障害を持つ皆さん全員が楽しめるものであること」という難しさがありますが、これからもいろいろ試行錯誤をして、皆がより楽しめるものを考えていきたいと思っています。

最後に、落語の舞台の設営や会場準備などに協力していただいた方のおかげで、楽しく、無事に終える事ができました。ありがとうございました。



(多摩区身体障害者協会 なかにし ふじえ 中西富士江)

編集後記
暦のうえでは立春を過ぎたが、衆議院議員選挙の前日に、首都圏でも2年ぶりの大雪となった。朝目覚めて窓を開けたら、辺り一面が雪で真っ白、別世界の光景にビックリしました。翌日は衆院選でしたが全国的な大雪のため、当然ながら投票率は低いだらうと思っていたら、前回より投票率が高く、自民党は公示前から118議席増しとなる最多の316議席で、単独政党として戦後最多の獲得議席数を記録した。衆院の総定数465の3分の2超も初めてで歴史的な大勝とニュースで報道され、またまたビックリしました。
(広報・啓発委員長 いとうみひろ 伊藤實)
発行人 (特非) 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3丁目
1番17号102 (頒価100円)